

埼玉県立大学 学長あいさつ

本日ここに、学士の学位を取得し、卒業式を迎えた保健医療福祉学部 427 名、および、修士あるいは博士となられた大学院研究科 40 名の皆さん、埼玉県立大学の学生、教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

また、この日にいたる長い年月、皆さんの勉学を支えてこられたご家族や、設置者である埼玉県をはじめとする諸団体、および実習施設等の皆様のご支援に、深く感謝の意を表します。

言うまでも無く、卒業式・修了式は、皆さんが学修において所定の目標を達成したことを祝福し、新しい人生の出発を祝う、大学にとって最も重要な式典です。

しかしながら、このたび、新型コロナウイルス感染症の急速拡大という、未曾有の事態に遭遇しました。この異常事態に臨み、皆さんや参列者の健康を守る事に加えて、人々の健康と福祉に貢献する人材育成と学術の発展に寄与するという本学の使命、および多くの卒業生が 2 週間後には医療や福祉の最前線で活動を開始することを考慮し、感染拡大の防止を第一とし、極めて残念ですが、このような形態での式の挙行となりました。ご理解をいただきますようお願いいたします。

さて、皆さんは、それぞれの学位記を手にし、陶冶、進取、創発の基本理念のもとでの、これまでの学びを振り返り、将来への希望と幾ばくかの不安を胸に、これから自分が歩む道へ思いをはせていることと思います。

学部の課程を修了し、学士となったことは、皆さんに多様な道を開きます。専門資格を得て、あるいは広い見識を持って、社会で活躍していくことでしょう。さらに世界中の大学院への進学の機会を得ました。

修士、博士号を得られた皆さんは、高度実践者として、あるいは教育者、研究者として、存分に力を発揮することを期待します。

私たち教員は自らの学修や研究の体験に基づき、真実を探究する知的興奮を、皆さんに伝えました。それに応えて、この日を迎えた皆さんは、自然科学や人文科学、実践の学術を学び、職業人、社会人として必要なコミュニケーション能力や思考過程を身につけ、それらを用いて、世の中で、問題を発見し、解析し、解決策を見つけ、その成果を人に訴える力を獲得してきました。

教員は、そのような皆さんの学修に“成績”をつけました。しかしながら、同じ学科や研究科で、同じ科目を履修したとしても、皆さんは、自らの意思で一人一人異なる学びをしました。皆さん自身の学びは皆さん自身でしか感じることはできません。自分の独自の学びを誇りに思ってください。

しかしながら、これまでに学んだことのみで、これから皆さんが担う社会における責務を全うすることは、できません。皆さんがこれから進む様々な分野では、最新の知識も 5 年で色あせ、新たな知見や技術が次々と登場し、状況は刻々と変化していきます。保健医療福祉の分野でも、過去 10 年間で、診断、治療、リハビリテーション、ケア、社会制度、その他、全てが大きく変化しました。今後、10 年たてば、全く異なる環境で、今からは想像しえない看護や医療が行われているでしょう。

さらに近年は、数十年に一度の自然災害や最近の新型コロナウイルス感染症の大流行などの異常事態が頻繁に起こっています。人間の、過去のデータから導いた未来予測をあざ笑うかのようです。私たちは未来の不確実性から逃れることができません。

皆さんは、これから様々な変化や困難に直面し、それへ適応し、課題を乗り越えなければなりません。

そのためには大学で教授された内容を社会で実践するだけでなく、授けられた知識や技能を拡張し、発展させ、先達の背中を乗り越え、自身の能力の向上をはかるとともに、社会の発展に寄与し、それぞれの分野で独創的な未来を築いていただきたい。

それは、絶え間なく続く新たな学びであり、そのような積み重ねが、人々に信頼される職業人や教育者、研究者へ行き着くみちです。

ところで、一つお願いがあります。皆さんには、今後は様々な面で、本学を支援していただきたい。皆さんがこれから社会で獲得する経験や知見は本学にとっても大変貴重なものです。それらを元に、将来の埼玉県立大学と一緒に作りあげていただきたいのです。そのためにも本学は、皆さんが、必要なときにはいつでも、戻ってこられる場となるように努力します。

繰り返しになりますが、今日は皆さんの未来への出発を祝福する日です。皆さんが、保健医療福祉をはじめとする社会の様々な分野で、一人一人が信じる道を、力強く歩いていくことを祈念して、私の挨拶いたします。本日は、本当におめでとうございます。

令和2年3月13日
埼玉県立大学
学長 萱場 一則